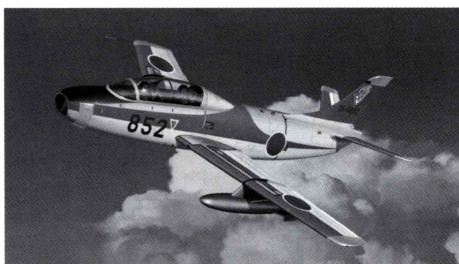


# 航空自衛隊 T-1B ジェット練習機

JASDF T-1B Jet Trainer

## AC-22



発売元：有限会社プラッツ  
〒424-0065  
静岡県静岡市清水区長崎64-1  
TEL 054-345-2047 FAX 054-345-2285  
PLATZ CO., LTD.  
64-1 NAGASAKI SHIMIZUKU SHIZUOKA CITY  
424-0065 JAPAN

かつては零式艦上戦闘機をはじめとする数々の傑作機を世に送り出し、世界にその技術力を誇った日本の航空産業でしたが、第二次大戦の敗戦によりその運用は制限され、生産、開発も規制されることになりました。その規制が解除されたのは1952年になってからのこと。その間7年、世界の航空技術はジェットを中心に格段の進歩を遂げ、日本の航空機産業にとっては空白の7年といわれるようになったのでした。そして、その空白を埋めて、見事復活を遂げる第一歩となったのが航空自衛隊のT-1ジェット練習機でした。

1954年、航空自衛隊が発足するとパイロットの育成が急務となりました。当時の航空自衛隊はアメリカからの供与機により構成。その中でジェット機へのステップアップに都合の良い練習用の機体の必要性が議論されていたのです。防衛庁は1955年に新たなジェット練習機の調達計画を決定。これは供与機の中のT-6テキサンに変わる軽ジェット練習機として位置づけられ、国産を念頭に検討がはじめられました。各社の案の中、後退翼機の場合が採用となり、戦後初となる国産のジェット練習機の開発がスタート。同時にその機体に搭載する国産ジェットエンジンの開発も始められたのです。

機体デザインに後退翼を採用することは、当時の最新技術への挑戦として大きなポイントでした。また、前後タンデム配置のレイアウトを採用した操縦席は教官が座る後部座席の位置を高く設定。視界を確保するといった工夫も加えられました。機体の開発が進む中、

The Japan aviation industry was proud of high technology in several aircraft development, such as A6M Zero fighter, in the world. However, the defeat of World War II brought restriction on development and production. The restriction was lifted from the year 1952. In the period of 7 years, the world's aircraft technology made a lot of progress in jet aircraft. To Japan aviation industry, that was a blank of 7 years. It was the T-1 jet trainer of JASDF that filled the blank and became the first step to achieve a great revival.

The development of T-1 started from 1955, one year after the JASDF was established. The Defense agency decided on a new Jet trainer procurement plan. The development of the domestic jet trainer was the first after the war, and the development of the domestic jet engine to be mounted on the aircraft was started at the same time.

During the development of the aircraft, the development of domestic J3 turbo jet engine which was scheduled to be installed was delayed. First, it went to import the British-built Orpheus engine and mounted. The prototype

搭載を予定していた国産のJ3ターボジェットエンジンはその開発が遅延。そこでまずは英国プリストル・シドレー社のオルフェウス・エンジンを輸入し、搭載することとなりました。試作機は1957年11月に完成。翌58年の1月19日に初飛行に臨んだのです。寒さも厳しかったこの日、試作機T1F2は無事初飛行に成功。その後、各種試験飛行が実施され、順次改良が加えられていきました。開発プログラムは順調に進み、1959年、オルフェウス・エンジン搭載型はT-1Aとして制式化、量産が決定します。最初の量産型が納入されたのは1960年9月のことで、主に第13飛行教導団に配備されたT-1Aは新たなパイロットの育成にその力を発揮し始めるのです。

一方、開発が遅れていた国産ジェットエンジン、J3も試作エンジンが1960年に納入されると、T-1Aの機体にオルフェウス・エンジンに替えて搭載する作業が実施され、60年5月には初飛行。これを搭載したT-1はT-1Bとして量産を開始。1962年9月、T-1Bの最初の量産機が納入されると63年6月までに20機が生産されたのです。40機が生産されたT-1A(その内3機はエンジン換装でT-1Bに改修)およびT-1Bは2006年に最後の機体がその役目を終えるまで、実に半世紀近い間、航空自衛隊のパイロットの訓練に活躍。日本の空を守る多くのパイロットを育てた機体として、また、日本の航空機産業復活の第一歩として歴史に残る機体となったのです。

was completed in November, 1957. The first flight was successful on January 19, 1958. After that, the flight test program was completed successfully, and in 1959, the T-1A mounted with Orpheus engine type is formality and went into mass production. The first mass production type was delivered in September 1960. The T-1A, which is mainly deployed in the 13th Flying Training Wing, began to serve as an important role to raise new pilots.

On the other hand, the domestic jet engine J3, which was delayed development, was also delivered the prototype engine in 1960, and was mounted on T-1A, and the first flight was in May, 1960. T-1 equipped with domestic jet engine started mass production as T-1B. A total of 20 T-1B were built from the first mass production in September, 1962 to June, 1963. A total of 40 T-1A were built, and until the last T-1B aircraft finished its role in 2006, the T-1s was active in training the pilots of the JASDF for nearly half a century. As the aircraft that raised many pilots to protect the sky of the Japan, the T-1s were the aircraft that remains in history as the first step of the Japan aviation industry revival.

### 組み立てをはじめの前に・・・

この説明図をよく読んで工作の流れをつかみ、塗装や組み立てなどの手順を考えて作業をしてください。

■このキットはディスプレイ専用プラスチックモデルキットです。接着剤、工具、塗料などは入っていませんので別に用意ください。次のような道具があると便利です。

●プラスチックモデル用接着剤（通常タイプ・溶剤タイプ）●デザインナイフ（カッター）●ニッパー●ヤスリ各種●プラスチックモデル用塗料●ピンセット ※接着剤や塗料、工具などはそれぞれの取扱い指示に従って正しく使用してください。■キットの部品やできあがった完成品などは、直射日光や高温になる場所を避けて保管してください。

■部品を切り取ったあとの不要部品や、ビニール袋などは自治体の定める分別収集基準に従って捨ててください。

### デカールの貼り方・・・

①貼りたいデカールを台紙ごと切り取り、切り取ったデカールを水またはぬるま湯に10秒程度浸します。②台紙ごと引き上げ、布やティッシュペーパーなどの上に置き、余分な水分を吸い取らせます。③台紙の端を持ち、デカールをスライドさせながら所定の位置に持ちます。④位置は指先に少量の水をつけ、少しづつずらしながら微調整してください。⑤柔らかい布や綿棒などで押し出すようにしながら、デカール内側に残った気泡や水分を取り除いてください。⑥貼り終わったデカールが十分に乾燥するまではさわらないように注意してください。⑦凹凸に馴染みにくい場合は、蒸しタオルや市販のデカール軟化剤を使用してください。⑧デカールの上からクリアーがけをすることを事前に余ったデカールでテストをおこなって問題がないことを確かめてからにしてください。

Study the instructions thoroughly before assembly.

When assembling this kit, tools including knives are used. Extra care should be taken to avoid personal injury.

Read and follow the instructions supplied with paints and/or cement, if used. Use plastic cement and paints only (available separately).

Use cement sparingly and ventilate room while constructing. Keep out of reach of small children.

Children must not be allowed to suck any part, or pull vinyl bag over the head.

### アフターサービスについて・・・

部品の不足や不良に関してはお手数ですが、お客様のお名前、ご住所、電話番号、商品名、不足部品の名称(番号)数量、を明記の上、メールまたは電話 /FAX、お手紙でご請求ください。無償で正規の部品を送付させていただきます。また破損、紛失については、実費で部品をお分けいたしております。お手数ですがメールまたは電話 /FAX でお客様のお名前、ご住所、電話番号、商品名、部品名(番号)をお知らせいただければ、弊社から送料を含めた金額および送金方法をお知らせいたします。

電話 /FAX での受付

TEL:054-345-2047(AM10:00~PM4:00) FAX:054-345-2285

メールでの受付

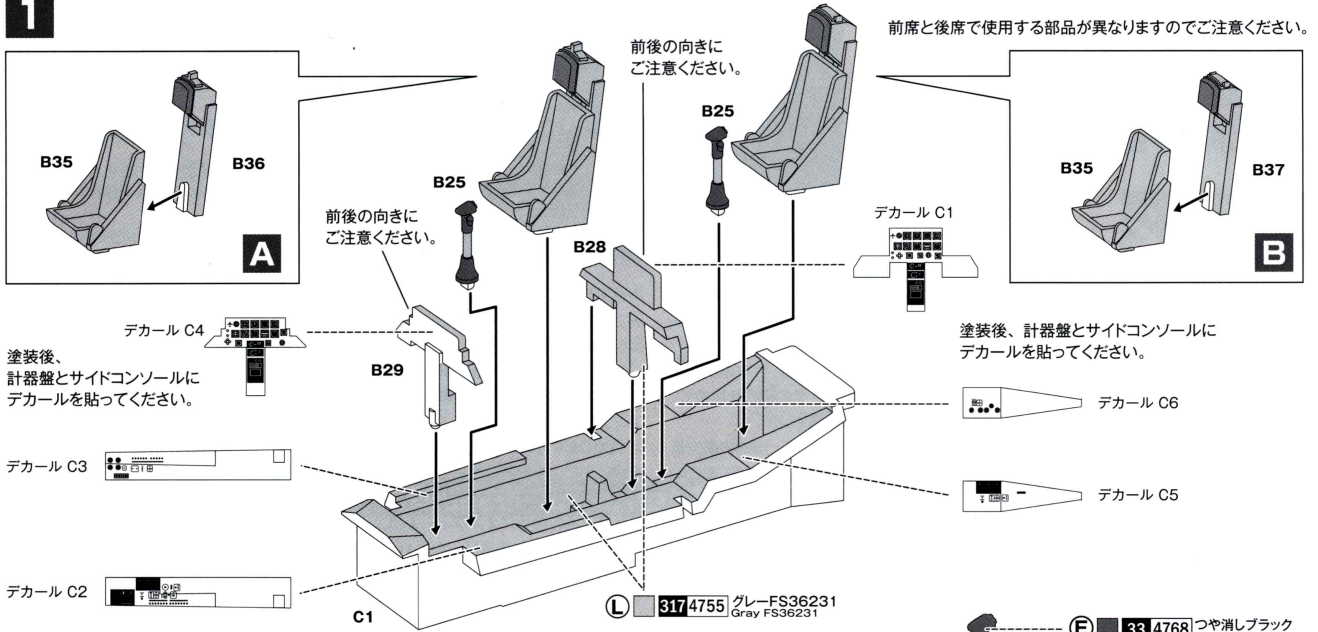
カスタマーサービス係:cs@platz-hobby.com

お手紙での受付、部品代金の送付先

〒424-0065 静岡県静岡市清水区長崎64-1  
有限会社プラッツ 部品請求係 宛

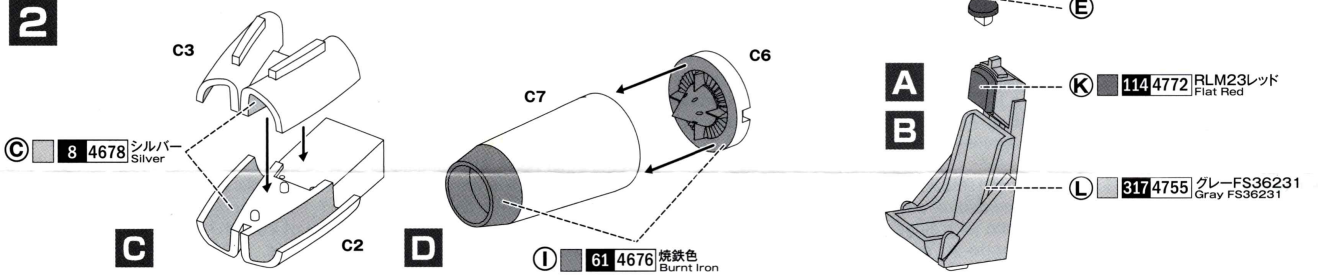
# コックピットの組み立て Cockpit Assembly

1



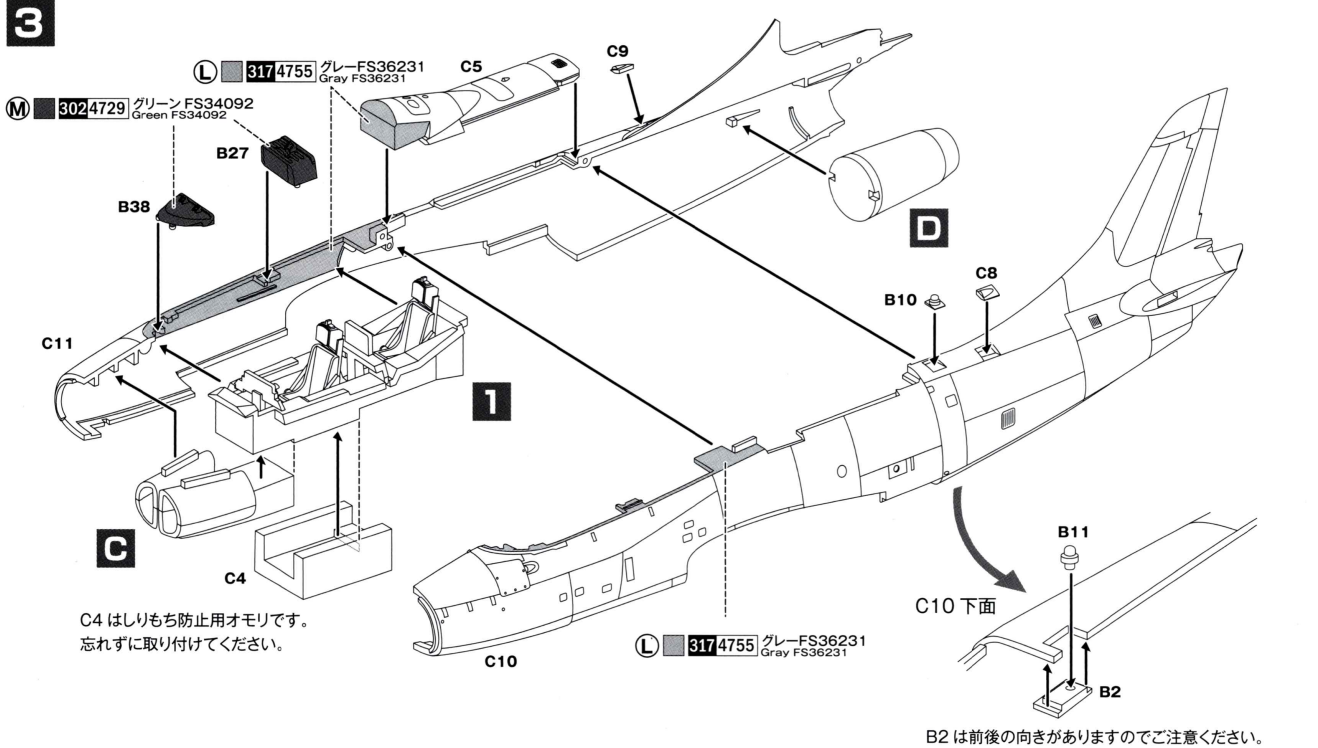
# インテイクとエンジンの組み立て Intake & Engine Assembly

2



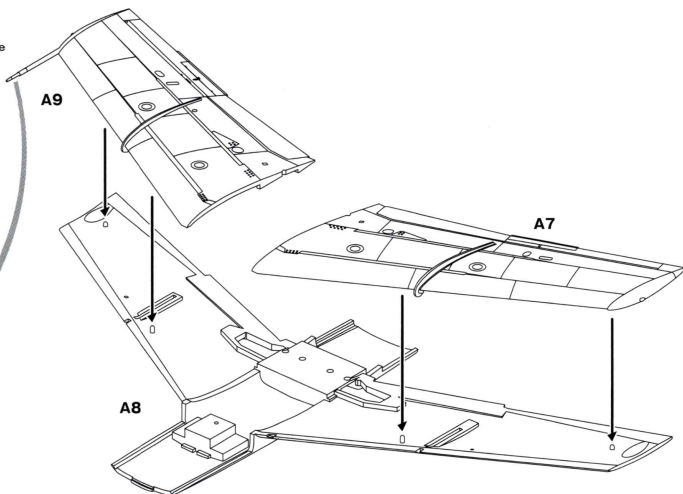
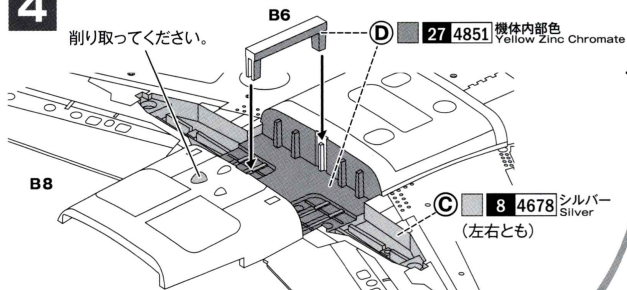
# 胴体の組み立て Fuselage Assembly

3



## 主翼の組み立て Wings Assembly

4



### より良い仕上がりのために 別売オプションパーツ

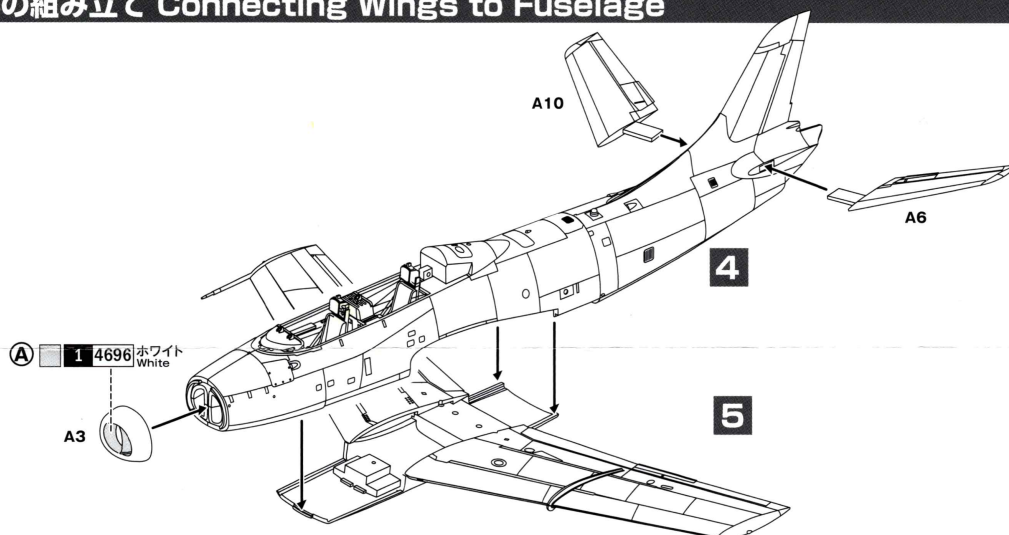
別売オプションのビトー管（真ちゅう製挽き物）に交換すると、よりシャープで強度の高い仕上がりとになります。

MM72-1 航空自衛隊 T-1 ジェット練習機用ビトー管

コード: 4545782054620 発売中: 600円 (税別)

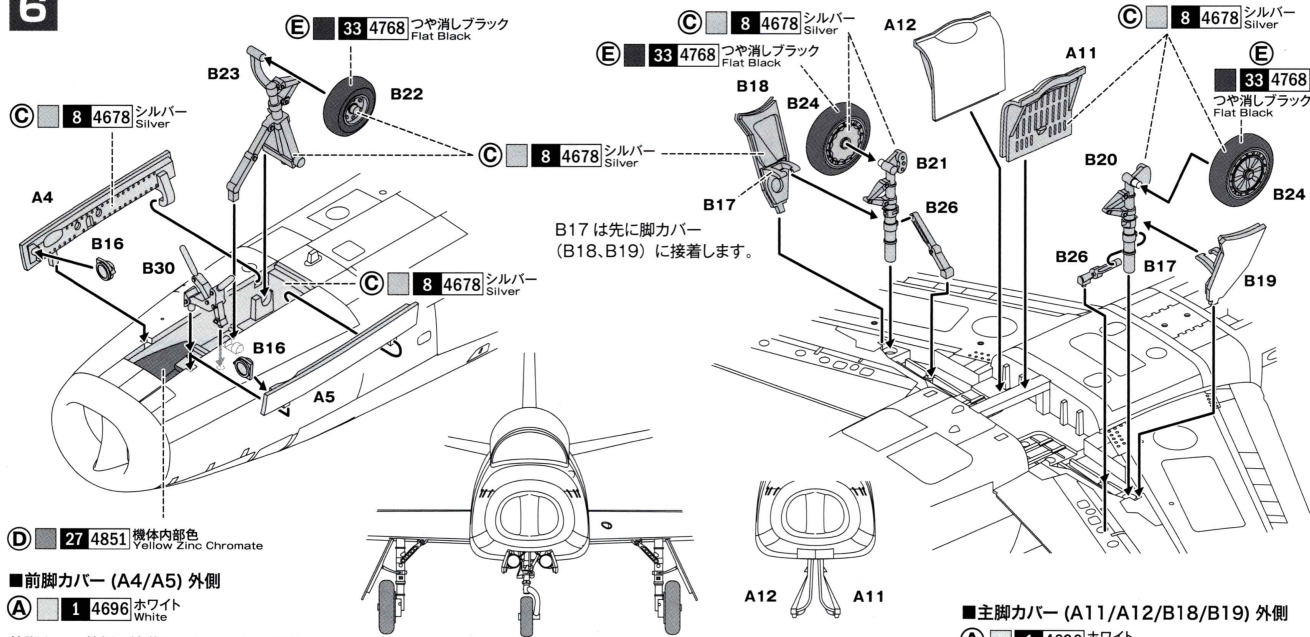
## 機体の組み立て Connecting Wings to Fuselage

5



## 脚の組み立て Undercarriages Assembly

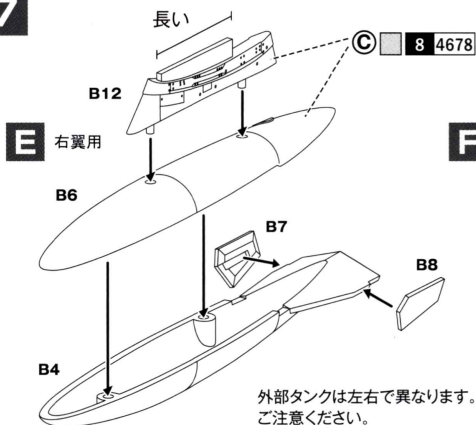
6



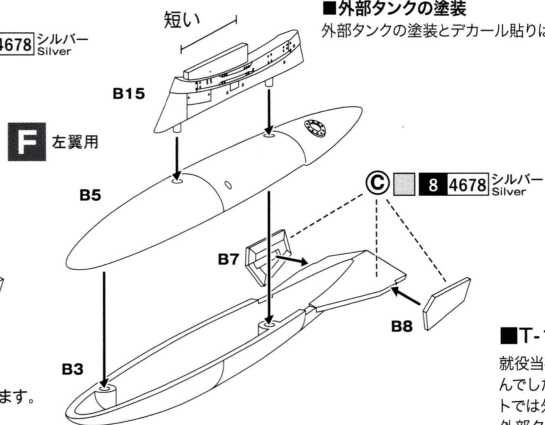
前脚カバー外側の塗装とデカール貼りは別紙「塗装&デカール」も参照してください。

# 外部タンクの組み立て External Tanks Assembly

7



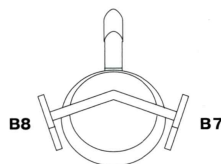
外部タンクは左右で異なります。ご注意ください。



■外部タンクの塗装  
外部タンクの塗装とデカール貼りは別紙「塗装&デカール」を参照してください。

## 外部タンク 背面図

B7-B8の取り付けの参考にしてください。

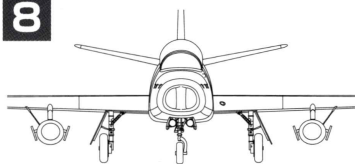


## ■T-1Bの外部タンクについて

就役当初の T-1B は外部タンクを装備していませんでしたが、後に装備可能となりました。本キットでは外部タンク装備状態を基本としていますが、外部タンク無しでの製作も可能です。別紙「塗装&デカール」も参照して選択してください。

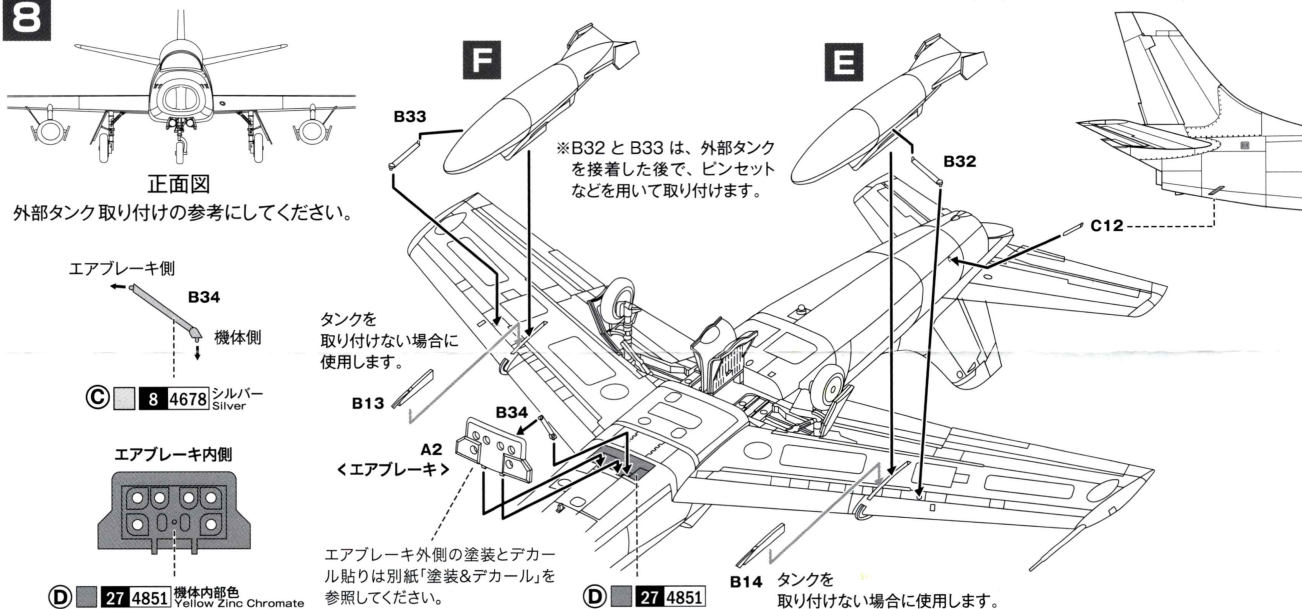
# 外部タンク・エアブレーキの取り付け External Tanks & Air Brake Attachment

8



正面図

外部タンク取り付けの参考にしてください。



※B32とB33は、外部タンクを接着した後で、ピンセットなどを用いて取り付けます。

タンクを取り付けない場合に使用します。

エアブレーキ外側の塗装とデカール貼りは別紙「塗装&デカール」を参照してください。

タンクを取り付けない場合に使用します。

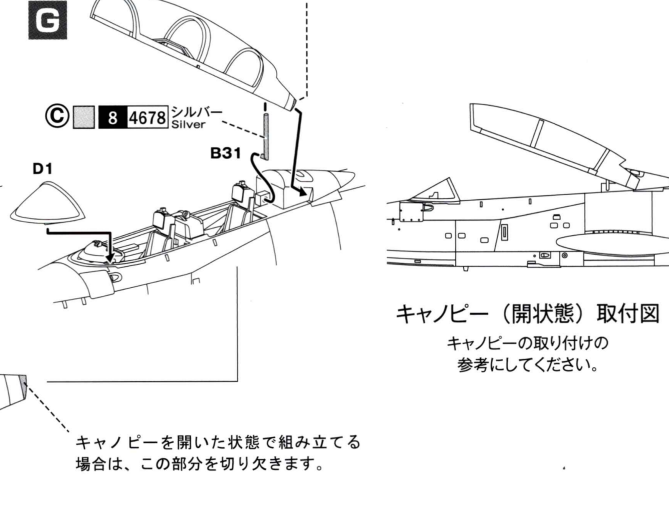
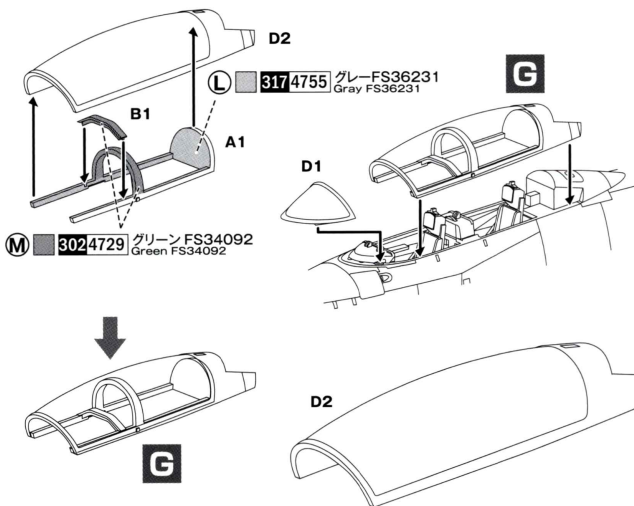
# キャノピーの組み立て・取り付け Canopy Assembly

9

閉じた状態で組み立てる場合

開いた状態で組み立てる場合

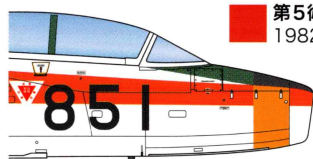
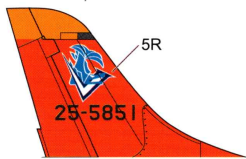
終端を最後の線に沿って切り欠きます。



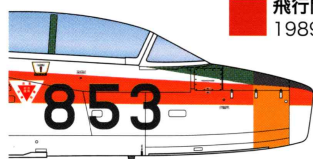
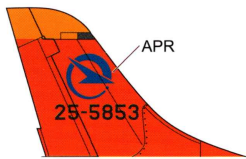
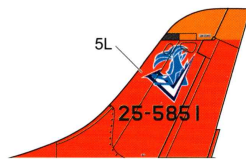
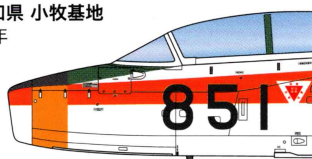
## キャノピー（開状態）取付図

キャノピーの取り付けの参考にしてください。

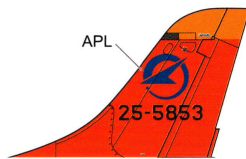
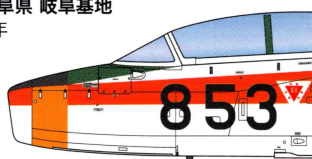
キャノピーを開いた状態で組み立てる場合は、この部分を切り欠きます。



第5術科学校 愛知県 小牧基地  
1982年～2006年



飛行開発実験団 岐阜県 岐阜基地  
1989年～2006年



### 外部タンクなしの例

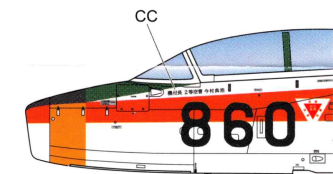
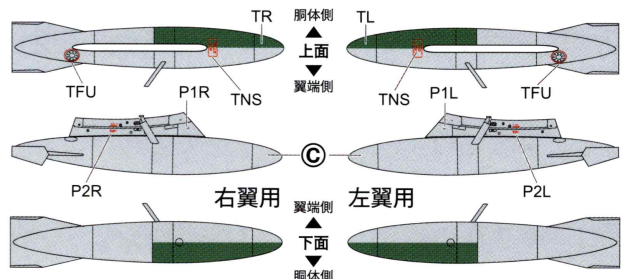
第5術科学校 860号機  
2005年10月 小牧基地航空祭

PHOTO: ISHIHARA



### T-1Bの外部タンクについて

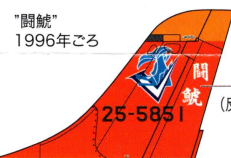
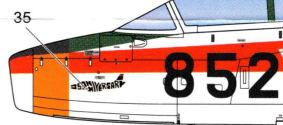
就役当初のT-1Bは外部タンクを装備していませんでしたが、後に装備可能となりました。本キットでは装備状態を基本としていますが、装備無しでの製作も可能です。



第5術科学校所属のT-1Bのデモ飛行としては最後の機会となった2005年の小牧基地航空祭。外部タンクを外して身軽になった2機のT-1Bは、その本来の飛行性能を十分に発揮し、戦闘機のお戦機機動を思わせるフライトを披露しました。

### 第5術科学校の特別マーキング例

第5術科学校創立35周年記念  
1997年ごろ



"開銃"  
1996年ごろ

6L  
(反対側: 6R)

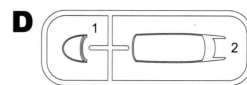
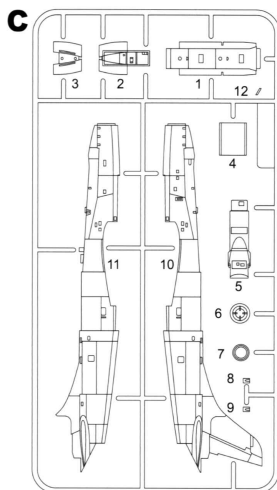
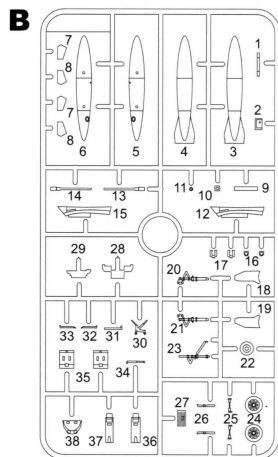
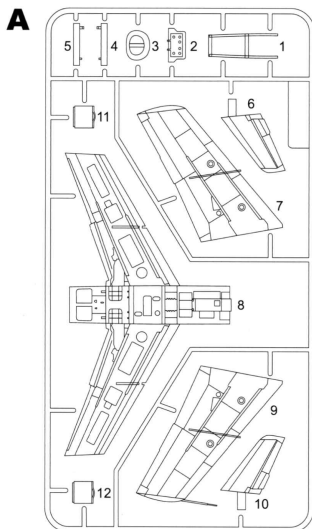
第5術科学校のT-1Bには、航空祭などでさまざまな特別マーキングが施されました。本キットでもその1部を収録しています。お好みに貼ってください。

使用する塗料 Paints for use

1 = GSIクレオス / Mr.カラー Mr. Color 4696 = テスター / モデルマスター Model Master

機体色 (A) 1 4696 ホワイト White	(B) 3 4714 レッド Red	(E) 33 4768 つや消しブラック Flat Black	(H) 50 4658 クリアブルー Clear Blue	(K) 114 4772 RLM23レッド Flat Red
(C) 8 4678 シルバー Silver	(F) 47 4630 クリアレッド Clear Red	(I) 61 4676 焼鉄色 Jet Exhaust	(L) 317 4755 グレー FS36231 Gray FS36231	(M) 302 4729 グリーン FS34092 Green FS34092
(D) 27 4851 機体内部色 Yellow Zinc Chromate	(G) 49 4625 クリアオレンジ Clear Orange	(J) 79 4629 シャインレッド Orange Red		

### 部品図 / Parts Plan



### デカール



説明図2部(本紙含む)

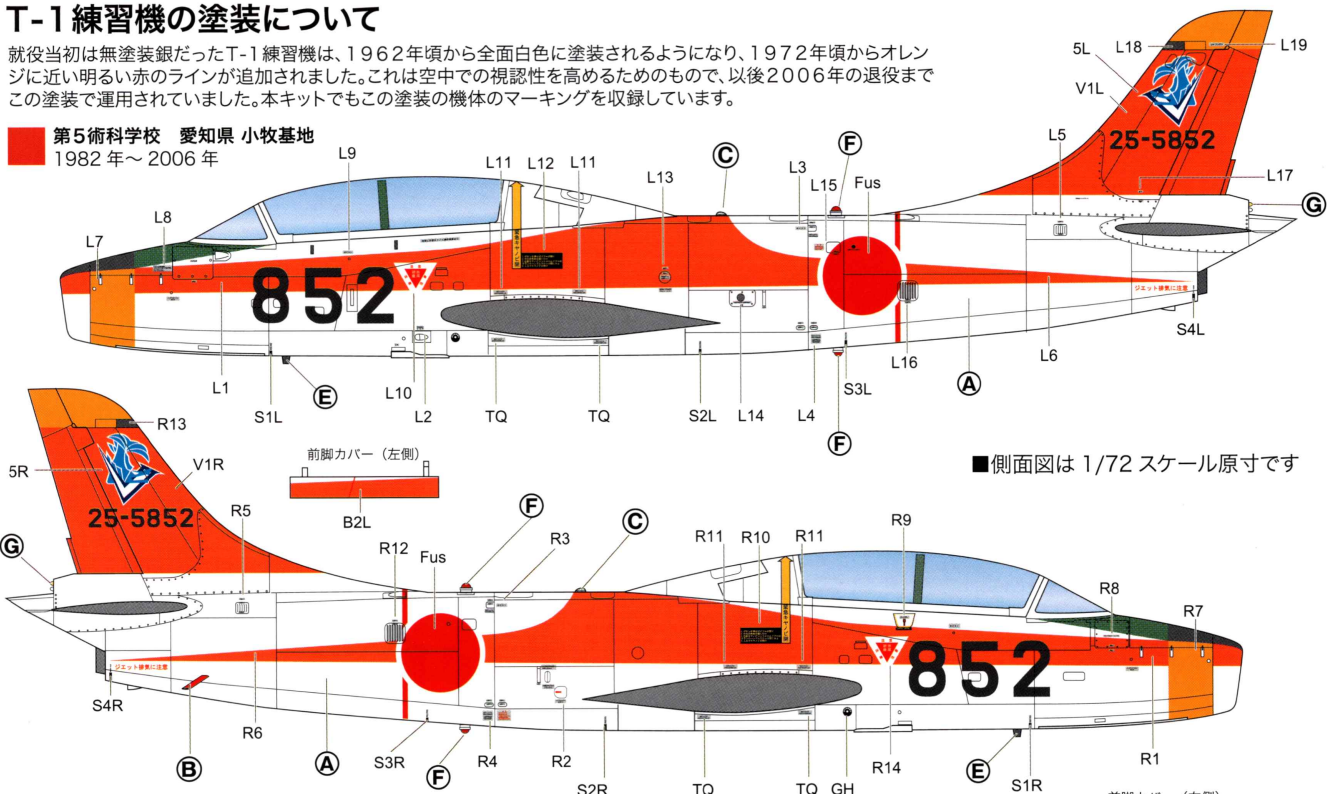
AC-22

有限会社プラッツ  
〒424-0065 静岡市清水区長崎64-1

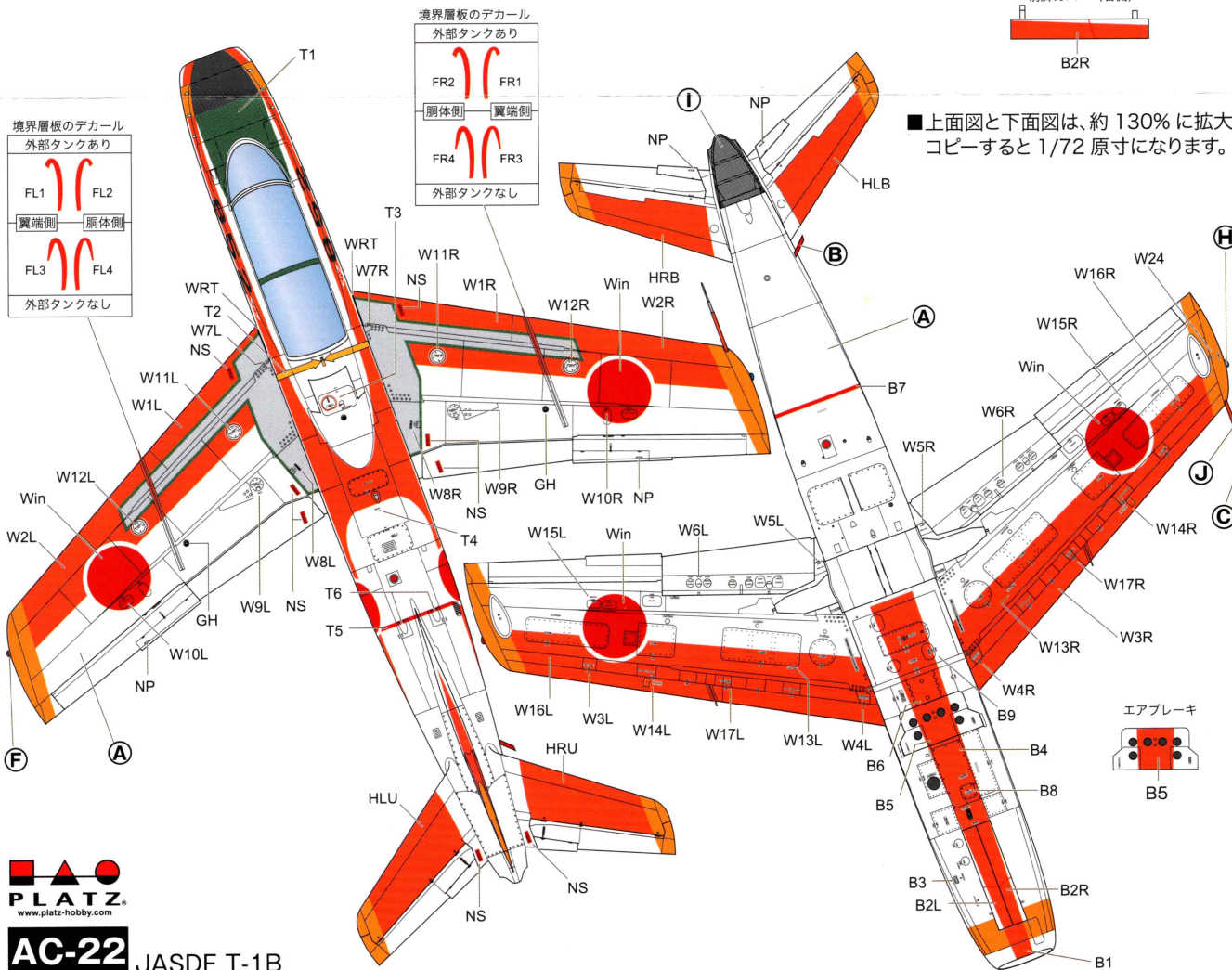
## T-1 練習機の塗装について

就役当初は無塗装銀だったT-1練習機は、1962年頃から全面白色に塗装されるようになり、1972年頃からオレンジに近い明るい赤のラインが追加されました。これは空中での視認性を高めるためのもので、以後2006年の退役までこの塗装で運用されていました。本キットでもこの塗装の機体のマーキングを収録しています。

第5術科学校 愛知県 小牧基地  
1982年～2006年



■側面図は 1/72 スケール原寸です



■上面図と下面図は、約 130% に拡大コピーすると 1/72 原寸になります。

